

中瀬周辺地区の歴史文化資源の概要

■概要

住吉公園周辺は、古来より渡場として利用されてきた場所で、石巻の由来ともなった巻石があり、歴史的な重要性が高い地区である。

中瀬は、中世より千石船を建造する造船場として利用されてきた地区であるほか、旧石巻ハリストス正教会教会堂をはじめとした文化的資源が移築されている場所である。

①船作場

石巻湊は、北上川舟運の終着地、千石船開運の始発湊として、開港した。

このとき、千石船を建造する場所として、中瀬に「船作場」と称される建造地として利用された。



⑩造船場スロープ

船を陸揚げや進水する際に利用するスロープ



⑪桜並木

中瀬の道路沿いの桜並木



②住吉公園

古来歌枕で「袖の渡り」と呼ばれ、旧金華山道の渡し場であった。源義経が船賃の代わりに片袖をちぎって船頭に与えたと伝えられている。



①大島神社 (住吉公園内)

住吉神社として知られ、拜殿には江戸時代の住吉付近を描いたと考えられている平田船の絵馬や、幕末の句会の記録とされる俳句の掲額がある。



⑨作田島神社

江戸時代から続く歴史ある神社



⑩旧石巻ハリストス正教会教会堂

明示18年に石巻市千石町に建設されたもので、現存する木造教会堂建築としては日本最古級のものである。



⑩秋葉神社

防火鎮護の神として、明治初年に中町から移転した神社である。



④巻石 (まきいし：えぼし岩)

石巻の地名の由来といわれている



③雄島

江戸時代から存在していた小島で、弁財天と明神が祭られていた。明治時代には、茶亭翠久庵や佐々木惣吉旅館などがあった。



各ルート・拠点の見直し案

ルート③

『旧北上川左岸下流』の見直し（案）



●職・住合わせた住民の憩いの場となる空間の確保

石巻湊の礎と漁港の賑わいを今に伝えつつ、新たな産業が集う
「居住と産業が隣接した憩いのルート」

ルート③の見直し(案)

- ・背後地は産業集積する地区及び居住地域となり、職・住の人口を抱えることから、人々の憩いの場となるよう、連続した植栽空間を生みだし、活用することでルートが拠点性を持つよう配慮
- ・安全に快適に水辺と緑を感じながら散策できるプロムナード
- ・移動途中で休憩し、水辺の景色を眺められるように配慮
- ・プロムナードから親水空間に行き易いように工夫（階段やスロープ）

なお、ルート③は下記の点に留意する。

- ・連続した植栽（並木道等）により、人々が集える空間も生みだし、活用できるスペースとして位置付け。
- ・プロムナードの移動を容易とするため、安全を確保してサイクリングロードとして活用する。
- ・水辺の景観を楽しめるよう部分的に滞留空間を設置し、水辺に変化を持たせる。
- ・中瀬との連携を考慮し、石巻の歴史・文化に関するサインや看板を設置し、学びの空間を設ける。
- ・水際部には転落防止柵を設置し、万が一落ちた場合でも上れるよう梯子や浮環等を等間隔で設置する。また、人が多く利用する階段には手すりを設ける。